

男女共同参画の視点で女性たちが協力し合いエンパワーメントできるような関係をイメージして名付けました。

シスターフッド

(2025.03.19 発行 第75号)



～参加、尊重、守秘の精神を大切に～

豊橋女性団体連絡会とは

女性の多様な活動が広がる中で、互いに切磋琢磨し、その持てる力を社会に向けて発揮していくことを目指しています。

「協働と共生」で様々な課題に取り組みながら、女性団体同士の交流を深めています。

令和6年度参加団体

わっぱの会、とよはし未来を拓く会、豊橋おやこ劇場協議会、東三にじの会、
新日本婦人の会豊橋支部、とよはし女性フォーラム、NPOとよはしCAP、
ハッピーグループ、NPOまんま、豊橋商工会議所女性会、農村輝きネット・東三河
ラ・ポール、Kids&MamaNPOねこのて(休会)、JA豊橋女性部会(休会)



令和7年1月19日

子どもから大人まで 自分らしく輝き 認め合う社会へ

第38回

豊橋男女共生フェスティバル

実行委員長 藤城ひろみ

第38回男女共生フェスティバルは、たいへん多くの方々にご来場いただき、無事に開催することができました。

今回は、元朝日新聞記者の稲垣えみ子さんに「自分で決める幸せのカタチ」と題して講演をしていただきました。原発事故後に始めた超節電生活を垣間見ながら、カネとモノへの執着がなく、「質素」を好む生活、「持たないこと」で生活は豊かに、面白く、幸福になり、自分でも気づかなかった内なる力が次々に表に出てくるように感じているそうです。ノーメイクで飾らない稲垣えみ子さんの講演は大変好評で、来場者の反響もよく、満足度が高かったようです。

「子どもから大人まで 自分らしく輝き 認め合う社会へ」をテーマに開催したフェスティバルを通して「自分らしさとは」「自分はどうか生きていか」を改めて考える機会をいただきました。

オープニングでは、「豊橋マリンバの会」による素晴らしい演奏、午後には、分科会、ふれあいコンサート、手作りバザー等、様々な企画が催され、楽しんでいただきました。

今回は、なんでも皆で決めようと講師の選定にも数回話し合いを重ね、例年よりも時間をかけて企画検討を進めましたが、フェスティバルを盛り上げるためにご協力いただきました皆様には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

テーマ「自分で決める 幸せのカタチ」

講師 稲垣えみ子さん

元朝日新聞記者

一橋大学卒業後、朝日新聞社に入社。大阪本社社会部、週刊朝日編集部などを経て、論説委員、編集委員を務め、50歳で退社。東日本大震災を機に始めた超節電生活を綴ったコラムが話題となり、「報道ステーション」「情熱大陸」等にも出演。

●著書

「シン・ファイヤー」「家事か地獄か」「老後とピアノ」「一人飲みで生きていく」「人生はどこでもドア」「アフロえみ子の四季の食卓」「もうレシピ本はいらない」「寂しい生活」「魂の退社」「アフロ記者」など



<実行委員の大谷靖子さんのコメントです>

フェスティバルの講演会、今年は稲垣えみ子さんをお迎えしました。

最近テレビでお見掛けする稲垣さん。特徴的なアフロヘアでありながら、元朝日新聞の論説委員という社会派の記者をされていた方。そんなギャップも魅力的です。お話の内容も、ご自身のファッションチェックから始まり、現在の生活状況をウィットに富んだ語り口で話され、楽しく拝聴することができました。

東日本大震災が、今の生き方を見つめなおすきっかけになったとのこと。

自分はどう生きたいのか、自分自身を大事にするとはどういうことか。それは全ての人たちに共通した課題だと思います。でも、日々はゆっくり考えることもできず、私たちもこういう機会があってこそ、自分を振り返り、自分に問う時間になっていると感じます。

“冷蔵庫は物をゆっくり腐らせる道具”

心当たりのある言葉に、会場からも笑いが起こります。小さなことですが、こんなことの積み重ねが起きている日常を考えさせられます。

「近所の古本屋さんは私の本棚。いつも行く近所のカフェで「いってらっしゃい」や「おかえりなさい」を言ってもらえる。地域が私のホームなのです。」

地域でつながりをもって生きていくことで、手放した多くのモノよりも大事な何かを手に入れて、イキイキ生きていらっしゃるんだなあ、と感じました。

講演後、低学年の子どもを持つ友達が「やっぱり断捨離はいいよね、すっきり生きられる。私もそうしたい。」と話していました。

子育てがひと段落した 50 代以降の人はそれでいいでしょう。でも子育て真っ最中の人はどうでしょう？

子どもにとって大事なものの、宝物は、大人から見るとガラクタのようなものばかりです。ダンゴムシや泥団子。セミの抜け殻を集めているという子もいます。大人から見たら「そんなもの捨ててきて！」というものばかり。

私も小学生のころ、友達と一緒に雑誌のアイドルの切り抜きを集め、交換し合っていた思い出があります。文字通り『スクラップ』、ですね。

今考えれば、なんでそんなもの…とも思いますが、当時は友達とのやり取りがコミュニケーションツールでしたし、交換した切り抜きが宝物でした。

“必要なもの”は、その時々に変化していくものでしょうし人によっても違うのだと思います。

そんなことを出し合って、それを尊重しながら共に生きていけるといいなあ、と感じるフェスティバルでした。



～開会式 マリンバの演奏～

◆日本女性会議が 2025 年に奈良・橿原市で開催されます！

大会テーマ： **日本国はじまりの地から未来へ**

～多様性を認め合う社会の実現を～

開催日：2025 年 10 月 3 日(金)～5 日(日)



日本女性会議とは？

日本女性会議とは、全国から約 2,000 人の参加者が集う男女共同参画をテーマとした国内最大級の大会です。

男女共同参画を切り口として地域が抱える様々な課題の解決策を探ることを基本理念として、1984 年からスタートし、これまで全国各地で開催されてきました。そして、奈良県橿原(かしはら)市で記念すべき第 40 回目の日本女性会議を開催することとなりました。

一人ひとりが活躍する社会のために何ができるだろう？と問いかけています。

多様性を認め合う社会の実現に向けて、ともに新しい一歩を踏み出してみませんか



🌸🌸🌸 一年間のご愛読ありがとうございました 🌸🌸🌸

【奥付】豊橋女性団体連絡会広報誌シスターフッド 2025年 3 月19 日発行
編集・発行担当者 石田容子(わっぱの会)、夏目美鈴(とよはし未来を拓く会)
鈴木節子(ラ・ポール)